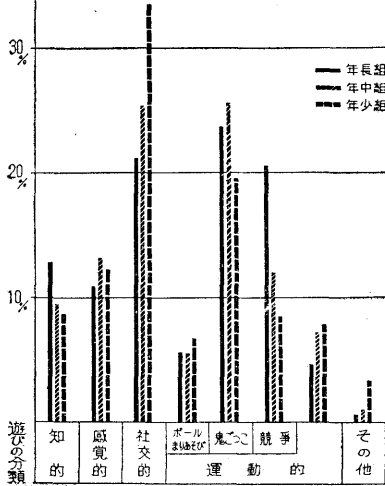


よくする遊び、好まれる遊び



遊びの種類を追求したい。

つづき代表的な遊びの個々について、身体的、心理的発達的面より子どもの興味を分析し、具体的な指導方法を追求したい。

集団遊びについての問題点	幼稚園 %	保育園 %
広い場所がほしい	31.4	28.7
自由につかえる場所がほしい	7.5	7.1
能力差(年齢差)があり困る	9.3	14.3
人数が多すぎて困る	3.7	8.6
消極的で参加しない子の指導	9.3	25.7
リーダーばかりになりたがる子の指導	7.5	4.3
協力がなくルールを守らぬ子の指導	5.5	4.4
遊びが常にかたよる	3.7	2.9
勝負にとらわれる	1.9	1.4
遊びの種類をたくさん知りたい	9.3	9.7

り、それ故その指導方法の研究の必要性を痛感する。

(四) 個々の遊びに対する興味は年齢により差がみられるから、その与え方、人員構成など考慮する必要がある。また先生の与える遊びと子どもの好む遊びとは高度の相関を示すから、教師は適当な遊びを豊富に用意したいものである。

(五) 今回は一般的傾向を把握するための実態調査にとどまったが、ひき

幼児のグループ形成に関する一考察

一 考察

平安女学院短期大学 片岡 靈 恵

用語の定義について グループ形成という用語を、主として、教師がある意図をもって幼児の生活を指導する一方法として考えた。

研究の目的、研究の方法、対象、期間、教師の与えたグループ構成

プリント参照

自然発生的グループの構成 自然発生的ということばについて
ソシオグラム

結論的考察 教師が、幼児のグループ形成を助けることの可否についてに重点をおいて、考察の結果をのべる。すなわち、第一に、幼児たち相互の選択と結びつきは、教師の観察を超えたものがしばしばみられる。殊に、二年三年と在園する子どもたちは、自然に、かしこい選択をし、グループ生活を楽しむ能力を備えている。そして、第二には、教師のかしこい配慮によるグループ形成は、お互いをよく知らない時期には適宜におこなわれるべきであろう。

評価 自由活動場面におけるグループ、すなわち、遊びのグループの観察が出来なかつたため、比較が出来なかつたこと、ソシオメトリックテストが不完全であったこと。

幼児の集団組成からみた

男女差の問題

広島・やわらぎ学園 樋口三紀子

この研究は、幼児の日常生活において見られる男女差が、いかなる要因にもとづくかを追求するため、彼らの集団を主体とする観察をおこない、その組成の成り立ちから男女差の本質をより深く追求することを試みた。

幼児集団の観察調査は広島市内の一保育所を対象におこない、その結果、次のような事実が得られた。

- (1) 幼児は集団を構成する傾向が大であり、それは在園時において著しい。
 - (2) 登園時に両性集団(男女混合集団)が多いのに比較して、在園時には同性集団(異性のまじらない集団)が多い。
 - (3) 集団構成の要因は、登園時において近所関係、在園時において友人(遊び友だち)関係が主である。
 - (4) 遊びを中心とした幼児集団は、同性によって構成されている場合が非常に多い。この事は遊びに対する興味に男女差のあることを示す。
 - (5) 一般に男児集団は女児集団に比較して、優位であり、女児集団の遊びの種類は男児集団の動きによって強く影響され、男女の遊びの種類は男女各集団の動的相互関係によって決定されている場合が多い。
- したがって、調査上の総合的集計値は、必ずしも彼らの遊びに対する興味の度合を示さず、また本質的な男女差をも示さない。すなわちそれらの調査結果は、いずれも両性の相互要因を含んだ結果であり、本質的な男女差の問題を究めるためには、今後相互要因を除いた同性のみの集団調査をも、なさなければならぬと思う。

積木遊びにおける

幼児集団の比較

東京・閃星幼稚園 清水エミ子

目的 一年目は自由に積木遊びに集まって来る幼児の性格と友だち関係と作品を、二年目は一年目と同じ方法で、二期の中頃から作品の題をあたえたり、積木のせいげんをしたりして、性格と、友だち関係、作品を比較してみた。その結果、適度の指示ならかえってよろこび、積木遊びが発展していったので、本年は入園当初から教師が交友関係と向性検査によって、(内向・外向・正常性の男女六名)意図的に二つの同質グループを作り、Aのグループに構成に対する暗示、部署や分担をきめたり、でき上った作品をほめたりし、一方、Bのグループは作品の題をあたえるだけにして積木遊びの①指導に対しての反応、②交友関係および持続時間、③作品について、を比較観察した。

結果 一学期、Aグループ。指導されることをいやがり、持続時間も短く作品も粗雑、友だち関係も外向性男児がかきまわしてしまい、交わりは持てない、しまいには課題されたものかんたんにつけてから自由なものを作るようになってしまった。BグループはAグループより課題をいやがらず、持続時間も長く作品ものびのびと作り友だち関係も外向性男児の話しかけてたのしく交われた。

二期、Aグループ。指導になれ、作品も立体的になり友だち関係も交わりは浅いが、内向性、正常児がリーダーになれるようになった。Bグループ。作品も立体的になったがAグループのまねが多く